

一席 沖繩県知事賞

本木 隼人

胎界の奥に繋がる三・一一

石鹼玉洞に瘤ある模合墓

地球に帆洗濯物の白きこと

シャンプーの影に気付きし日永かな

白き風遺影の枠を四角とす

二席 沖繩県文化振興会 理事長賞

石堂 和霞

白薊島のあばらのよじれけり

家中の吸盤押してゐる極暑

どの道をゆきても墓や牡丹蔓

みるくに似た翁のゆくや盆の月

花甘蔗のなべてほどよく撓みけり

佳作

マネキンの目の透きとほる立夏かな

体積を隠しきれない夕立雲

等身の影に真向かふ沖繩忌

案山子立つ天動説の真ん中に

折り鶴に息を継ぎ足し夜の秋

伊波 信之祐

佳作

古里の港で異人となりし夏

陽炎や記憶を失くす人ばかり

退廃の幻視を誘う猛暑かな

風鈴やキレイな嘘に揺れる民

虹架かる島は誰のものでもない

野原 誠喜

佳作

手も足もやがてつき出す漏斗雲

選択肢選べず余白で生きてみる

子の歌を拾い歩いて月昇る

首もたげ銀河押し上げて発芽

雲柱打ち立て竜呼ぶ返還地

伊志嶺 佳子

奨励賞

秋分や使い果てない茶のノート

秋の声川に足入れ化石ほる

けしごむの先が黒く秋の色

亀井 悠花